

“ Hazard ” について

「積雪地域災害研究センター」の英訳に含まれている“ hazard ”という言葉に奇異の感を抱く向きもあろうかと思うので、この語の由来や原義・近年の用法などを紹介する。英・米の著名な辞典類などをひもといてみると、“ hazard ”は、運・危険・偶発事などを意味するフランス語の“ hasard ”に由来し、この語源はおそらく「サイコロ」を意味するアラビア語“ az-zahar ”または“ al-zahr ”であろうという。英語では、サイコロを使うある種のバクチのことや、撞球の球を跳ばせてポケットに入れる撞き方、コートテニスで側壁の穴にボールを打ちこむこと、ゴルフ場の川・池・砂場等の障害物などの意があり、一般には、偶然とか予知しがたいもの、不確実さ、損害を受ける恐れ、危険などの意味である（例えば、“ Oxford English Dictionary ”, 1933）。アメリカ系の英語では近年、微妙な変化が現われたらしく、“ Webster New International Dictionary ”の第3版（1966）などでは、前記に類似の意味のほか、危険・損害などの原因という意味が用例と共にのっている（1950年の第2版にはこれはない）。更にアメリカ系の“ The Random House Dictionary of the English Language ”（1966）には、前記以外に、危険を引き起こすもの・害悪・害毒、などが記され、“ the many hazards of big city ”（大都市に生ずる多くの災害）とか“ fire hazard ”（火災）・“ public hazards ”（公害）などがあげられている。一方、イギリス系の方は、前記O. E. D. の Supplement vol. 2（H-N）が1976年にでているが、hazardの項には加えるべきものが見られない。

以上から推測すると、“ hazard ”という言葉は、サイコロ・バクチから偶然・危険を経て損害・災わい、更にその源などの意味も加わり、主としてアメリカ系の英語に「災厄・災害」として定着しつつあるのであろう。Bolt Horn Macdonald Scott 著“ Geological Hazards ”（1975, Springer-Verlag）をはじめ、アメリカやカナダの研究者たちの著書には、昨今しばしば“ hazard ”が見受けられる。また、American Geological Institute でだしている“ Dictionary of Geological Terms ”を見ると、1960年の第2版にはないが、1976年の改訂版には“ geologic hazard ”の語が新しく加えられていて、「自然的または人為的な地質条件であって、生命および財産に危険をもたらす可能性を有するもの」とあり、例として、地震・地すべり・洪水・断層活動・海岸侵食・地盤沈下・汚染・廃棄物処理・土台や足場の崩壊、などが挙げられている。

一方、以前から「災害」として使われている“ disaster ”の語は「星」(star) を意味するラテン語の“ astrum ”に“ dis- ”のついた形のもので、元の意味は「好ましからざる星のたたずまい」であるという。“ hazard ”と区別した災害科学上の用法は寡聞にして知らない。一方はサイコロバクチに端を発し、他方は星占いに語源を持つ。共に災難なことである。

（新潟大学理学部地質鉱物学教室 植村 武）